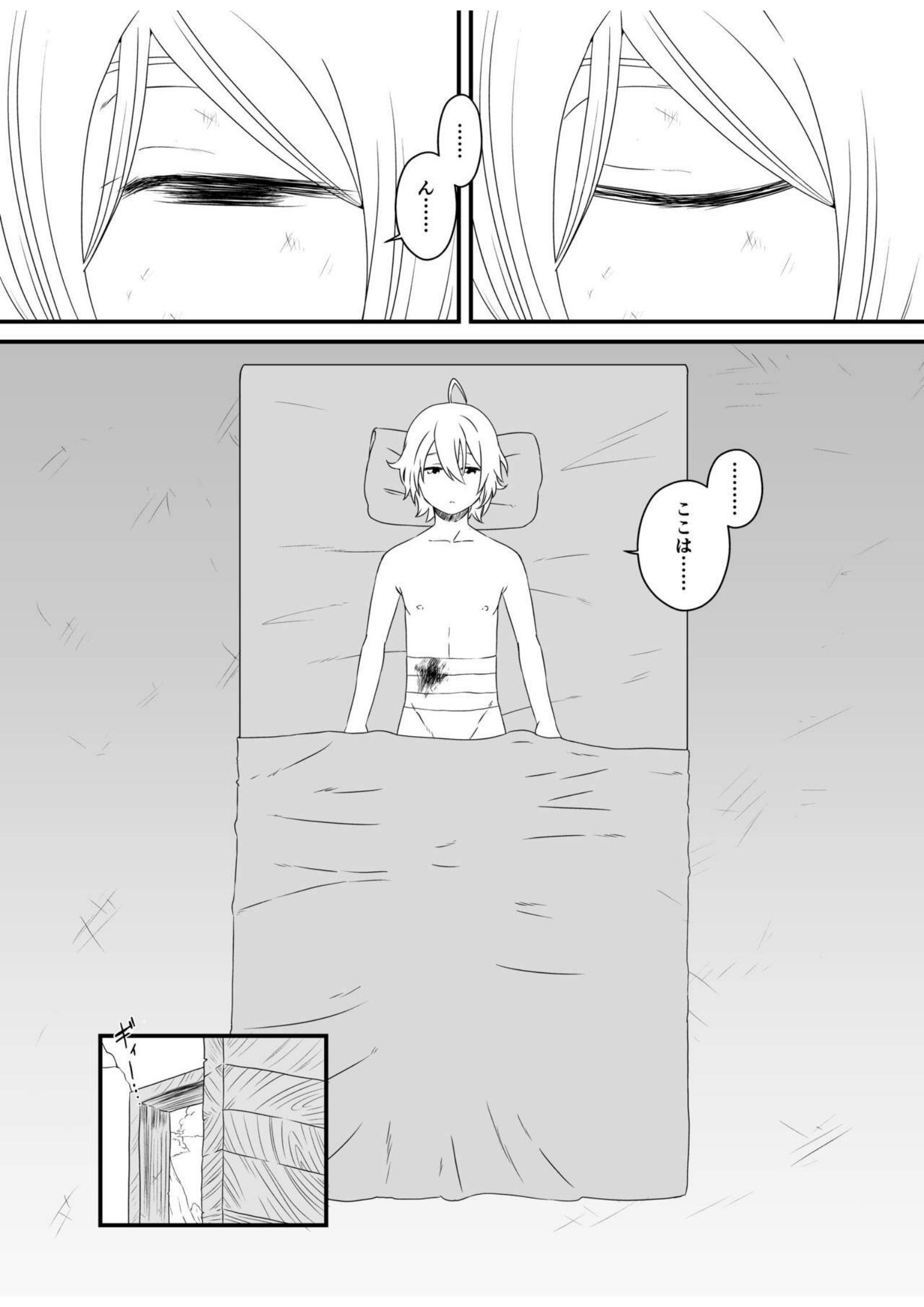


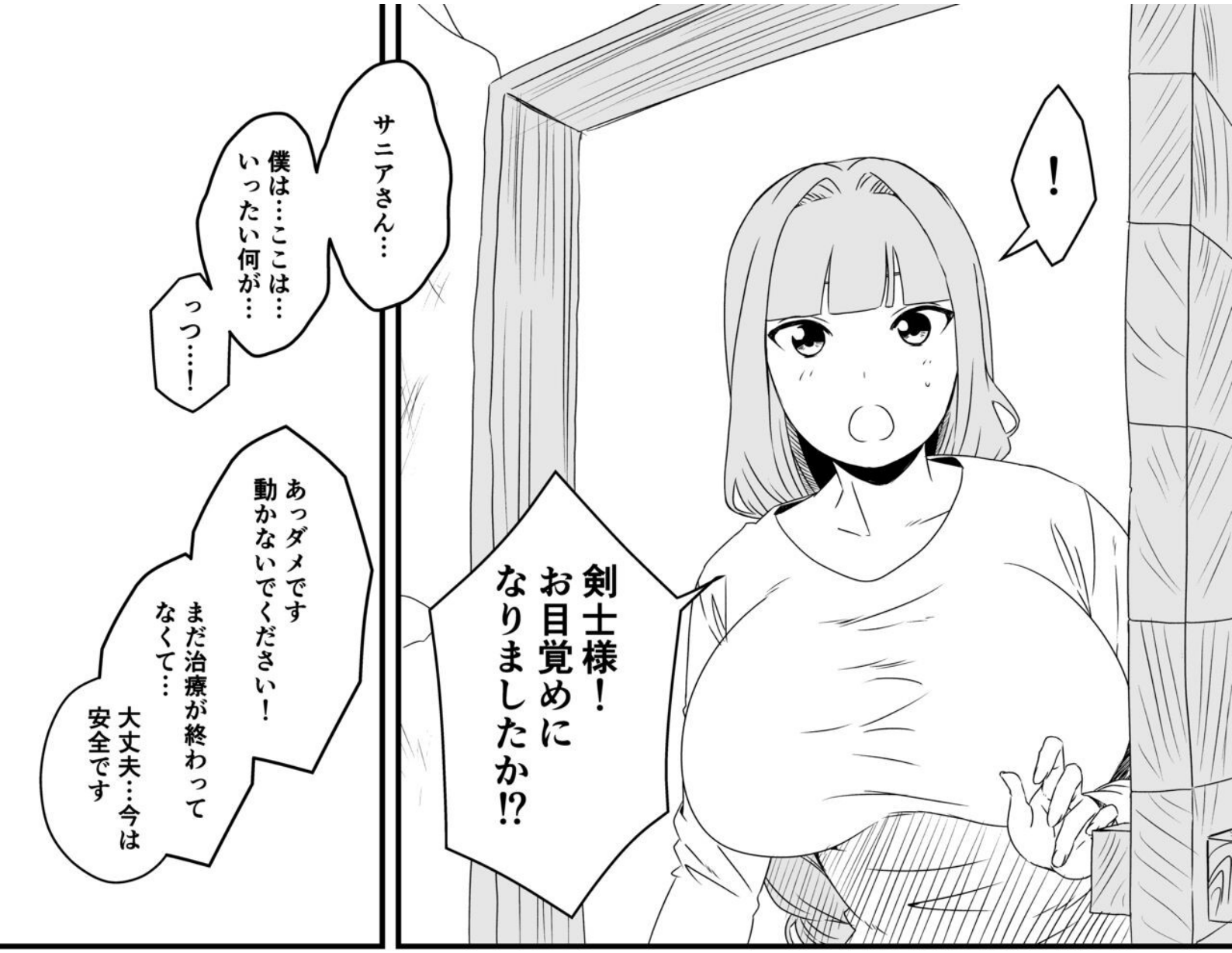
回復魔法をキメて

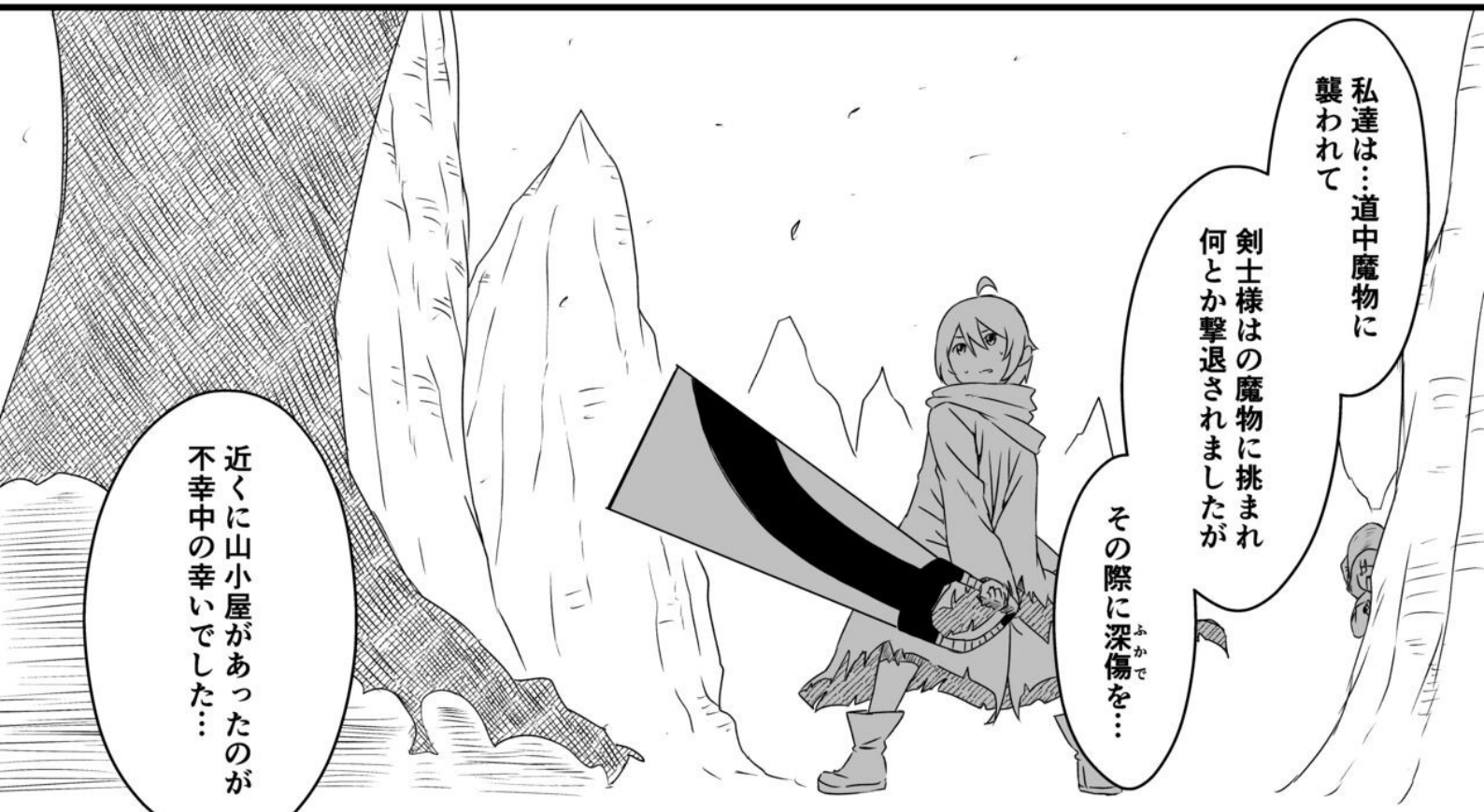
子作りしまくった結果

世界を救えるくらい強くなった話。

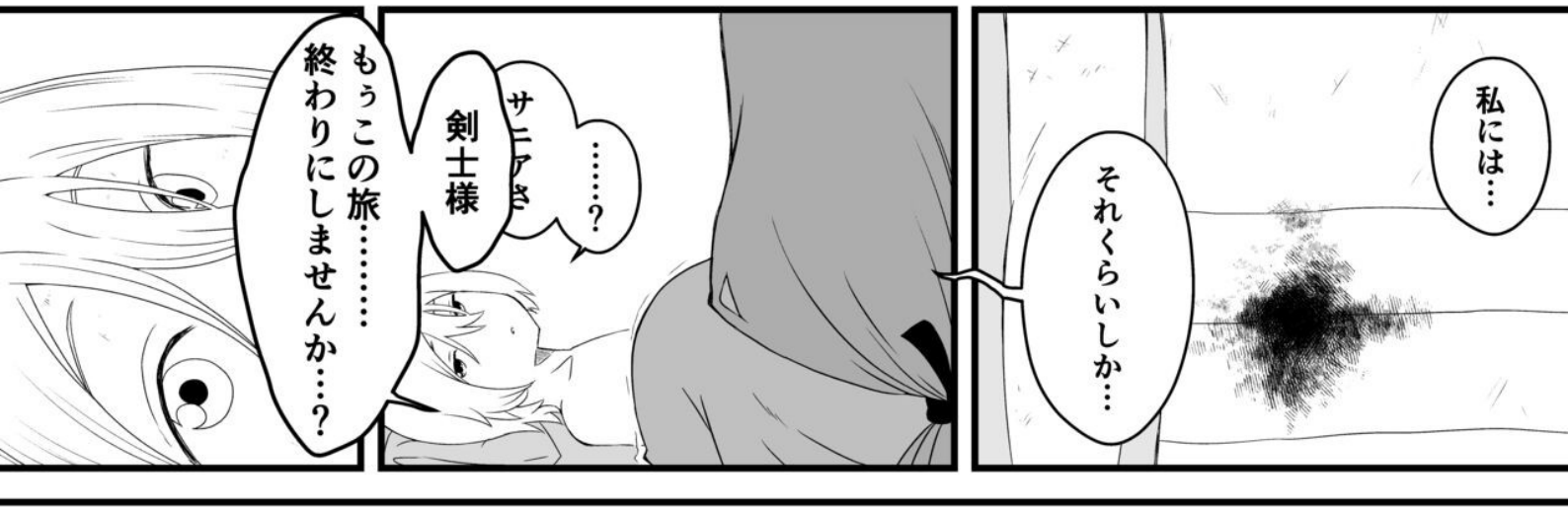



……
ん……
……
ここは……
ギィー……


！
剣士様！
お目覚めに
なりましたか!?
サニアさん…
僕は…ここは…
いったい何が…
っっ…！
あっダメです
動かないでください！
まだ治療が終わって
なくて…
大丈夫…今は
安全です


私達は…道中魔物に
襲われて
剣士様はの魔物に挑まれ
何とか撃退されましたが
その際に深傷(ふかで)を…
近くに山小屋があったのが
不幸中の幸いでした…


周囲に結界は張ってありますのでしばらくは安全かと
あ…剣士様の服は洗って外に干してます
泥や…血が付いていましたので
そうですか…
ありがとうございますサニアさん
いっいえ！そんなっ…


私には…
それくらいしか…
……？
サニアさ
剣士様
もぅこの旅……終わりにしませんか…？


旅を始めた時に比べて
剣士様は…どんどん強くなってます…
でも今回の様に…1人ではどうにもならない敵も
これから先も遭遇するでしょう…きっとたくさん
なのに…私は足手纏いになるだけて
出来る事といえば邪魔にならないよう隠れている事くらい…
このままでは剣士様はいずれ…


私…剣士様に…
死んで欲しく
ありません……
……
…僕が
ゴブリンの毒矢で
倒れた時
洞窟でミミックに
丸呑みされそうになった時
遺跡で罠に
かかった時
今回だって…
あなたが
居なければ
僕はとっくに
死んでました
役立たずなんて…
思った事無いです

……

……どうして　私にしたんですか…？

回復魔法が使えない回復士

ギルドのリストにも記してありましたよね？

これから世界を救おうという方が

何故そんな術士を仲間に選んだのですか？

…これを訊くと剣士様はいつもはぐらかしますが　ずっと疑問でした

夜伽役としての勧誘なら

何度かありました…

もちろん全て断りましたが…

剣士様は…あの人達とは違いとても誠実で…　同類には思えません

…言葉を交わせる内に聞いておきたいのです

何故…私を仲間に選んだのですか？

……

理由は…

2つ…かな

ギルドに登録している
戦士や術者の情報は

僕のような冒険者に
開示されていて

自由に閲覧できますよね？

確かに…サニアさんは
回復魔法は使えない…

ほとんどの冒険者は
即戦力を求める為…

そこだけで判断
すると思います

でも…僕は
ある一文が
気になりました

ある一文…

はい

潜在能力A+

ENGTH

OWER …E+

POTENTIAL …A+

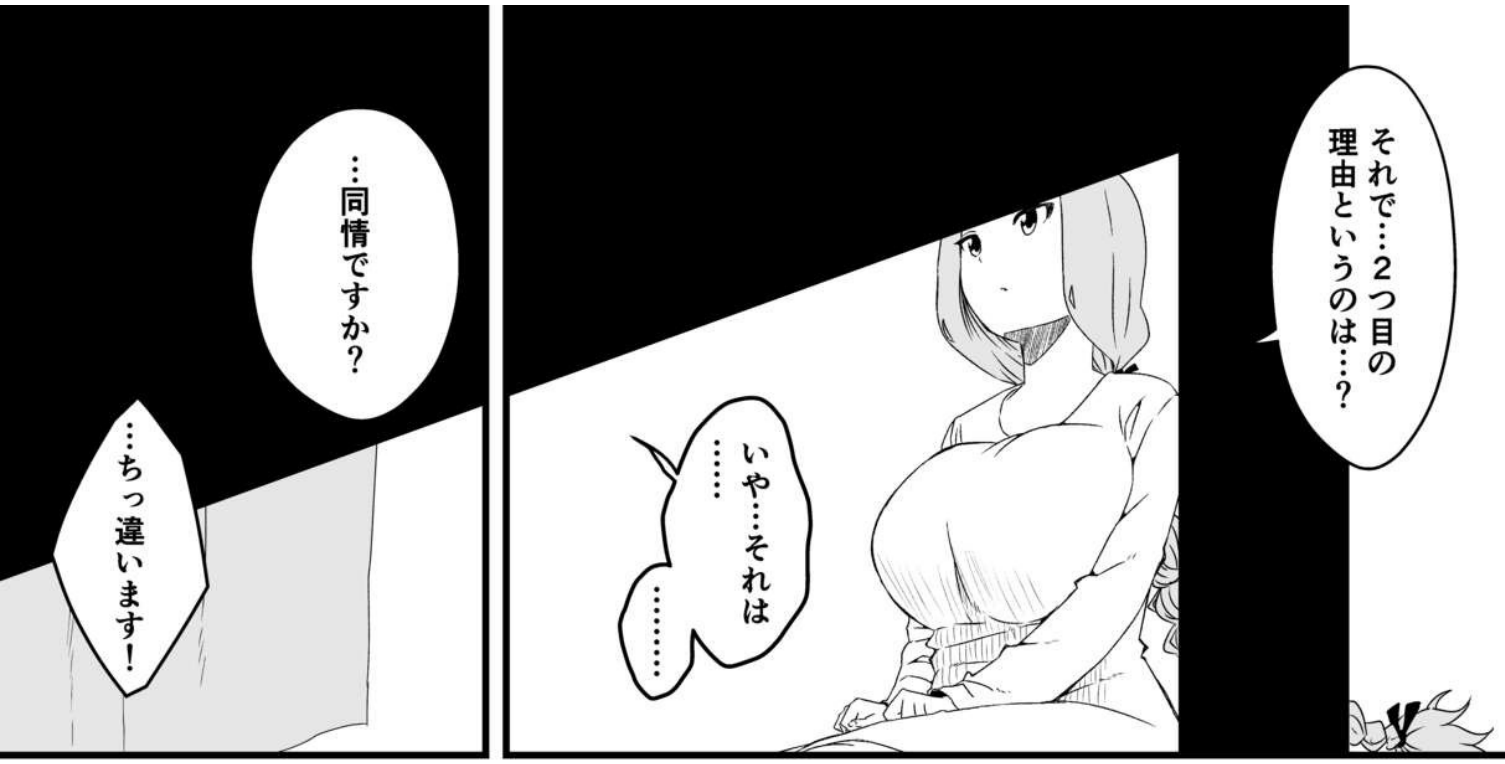
ギルドによると
各能力値の平均はC

B以上の戦士や術士を
見つける事は容易で無いと
されているのに…

それが…
理由の1つですか？

はい

もしかしたら
これから力が開花する
のかも…と思いました


それで…2つ目の
理由というのは…？
いや…それは
……
……
…同情ですか？
…ちっ違います！


ですが……
神官が能力を測り
適正はあると判断されるも
ろくに術もつかえず
ほとんど一般人と変わらない…
旅をした事すらない
経験値ゼロの回復士…
同情以外に
理由なんて
好きなんです！


はい？

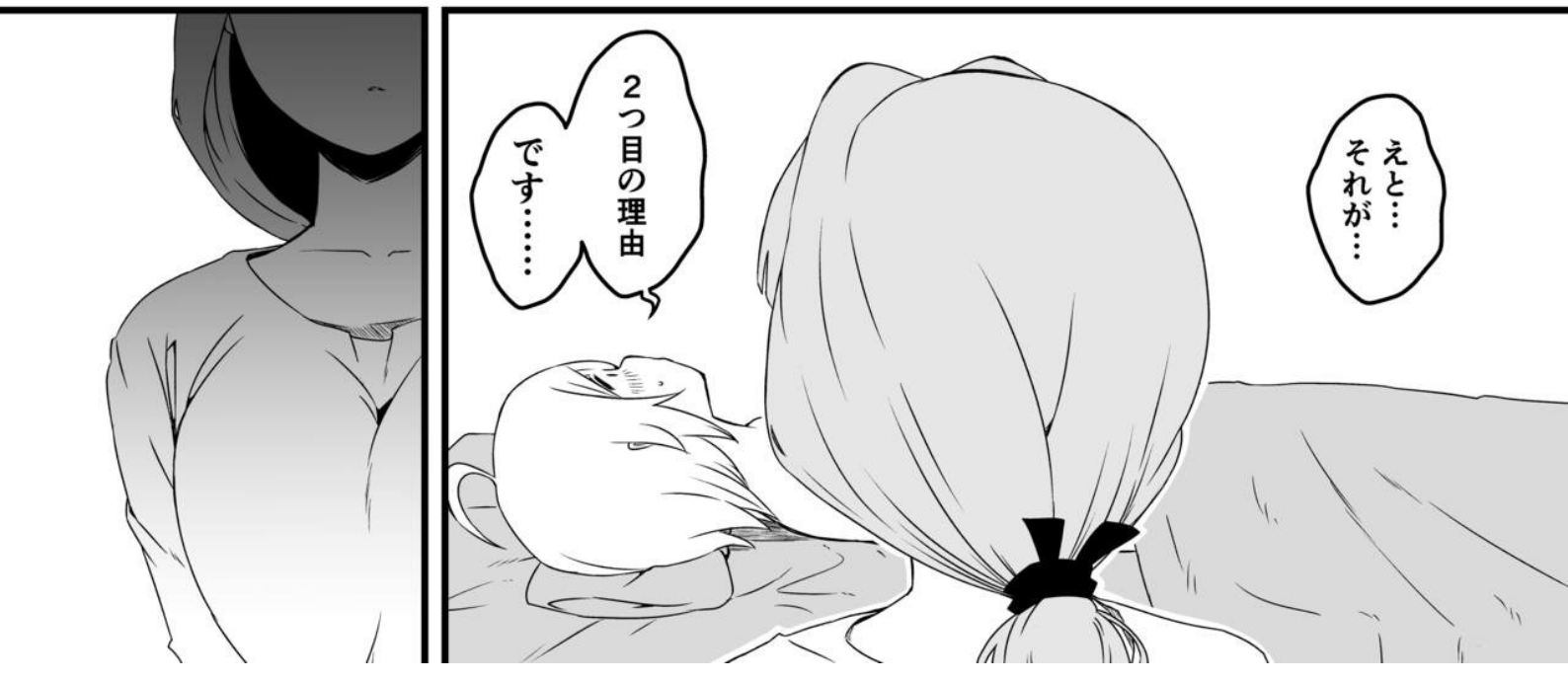
…初めて面会した時

ひっ一目惚れ…というか…

それからずっと…





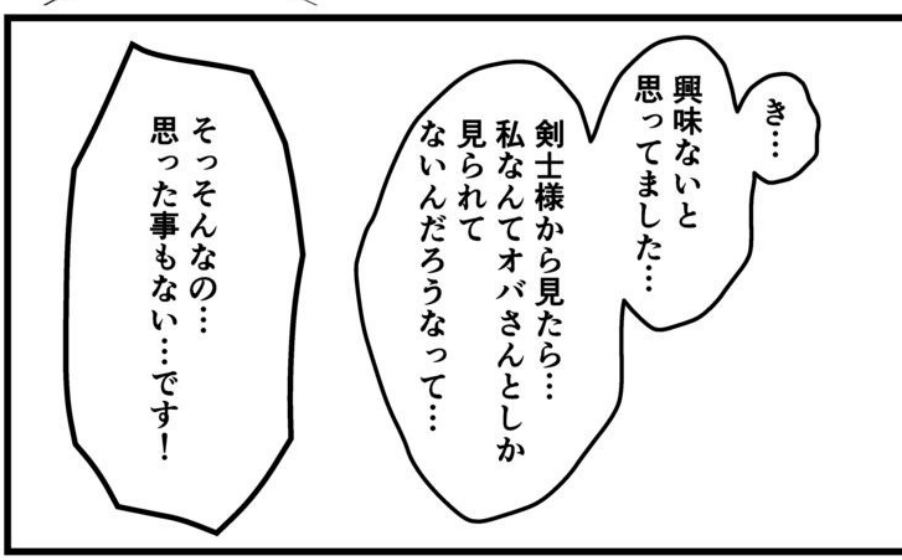





ドクンッ
ドクンッ


ドクンッ
ドクンッ


……あの…
このタイミングで言うのは…ズルい気もするのですが…
ギュッ…

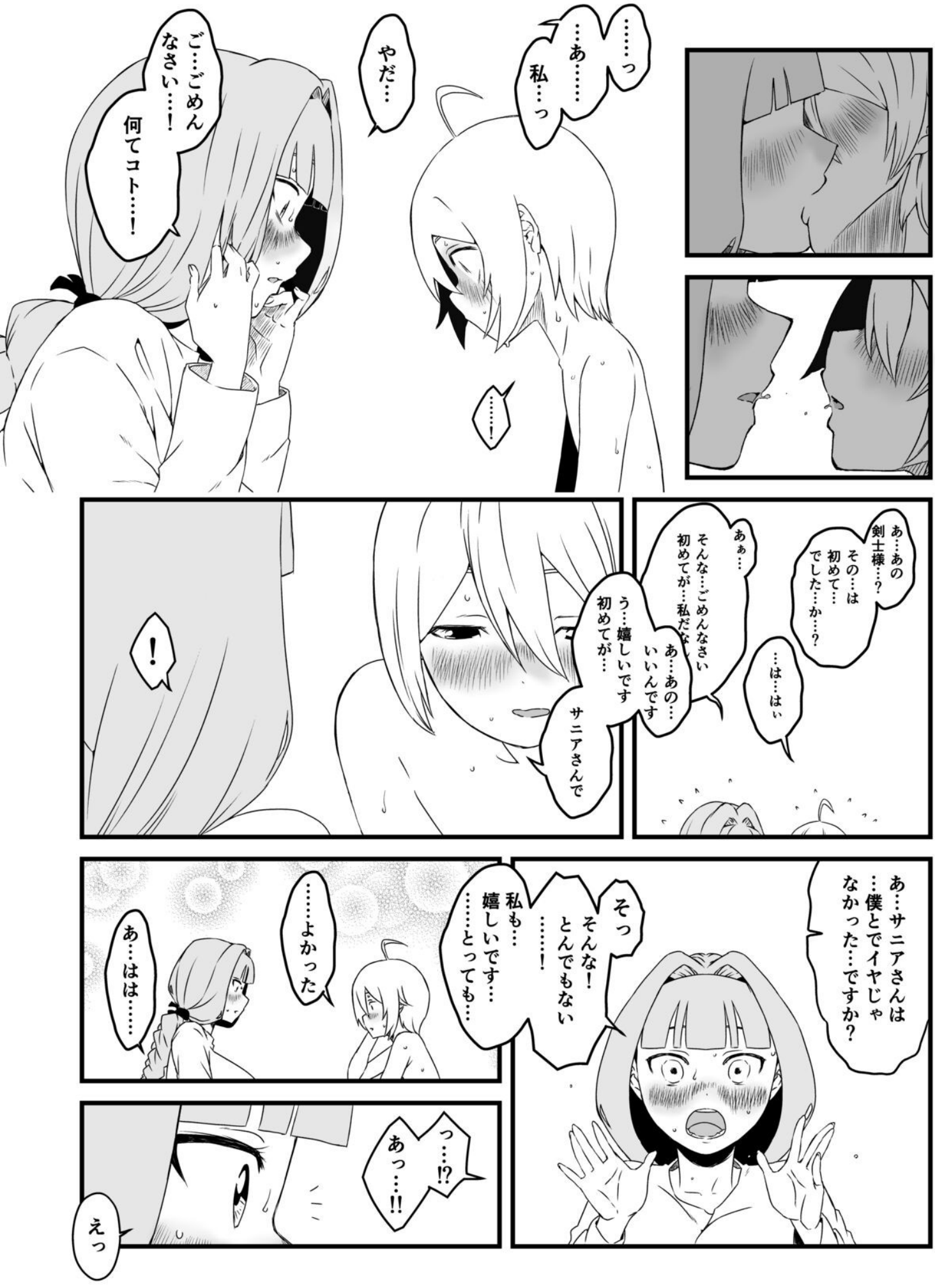

き…
興味ないと思ってました…
剣士様から見たら…私なんてオバさんとしか見られてないんだろうなって…
そっそんなの…思った事もない…です！


すっ好きになってて…
でも…キモチ悪いとか思われたらイヤだなって……
っ!!


私も…
剣士様と旅をしている内に…その


け…剣士様に惹かれて……っ
気が付いたら剣士様の事が…


きっキモチ悪い
なんておもっ…っ！
いっ…っっ!!
あっ！
剣士様！
大丈夫ですか!?
急に動くと
傷口が…
……っ
開い…て
……っ
あ…


……っ
…あ……
私…っ
やだ…
ご…ごめんなさい…！
何てコト…！
……！
あ…あの剣士様…？
その…は初めて…でした…か…？
…は…はぃ
あぁ…
そんな…ごめんなさい初めてが…私だなんて
あ…あの…いいんです
う…嬉しいです初めてが…
サニアさんで
！
あ…サニアさんは…僕とでイヤじゃなかった…ですか？
そっ
そんな！
とんでもない
……！
私も…嬉しいです…
……とっても…
……よかった
あ…はは……
っ…!?
あっ…!!
えっ


あっ…
傷が…！
だっ大丈夫ですか!?
傷…痛みます!?
い…いえ痛む…というか
ニィル…
あっ…
熱(あつ)…！
!?
きっ傷が…
消えてく…!?
これって…まさか
ニィルゥ…

かっ

回復魔法…!?

キス…?

え…何で…
サニアさん何か
したんですか?

い…いえ
そもそも私
回復術は一切
使えませんし…

でも傷が…

術を使ってないなら…
他にした事といえば
え…まさか…

っ!!

そういえば
魔術学校の教本に

魔術士及び回復士の
『気』のタイプは2つ

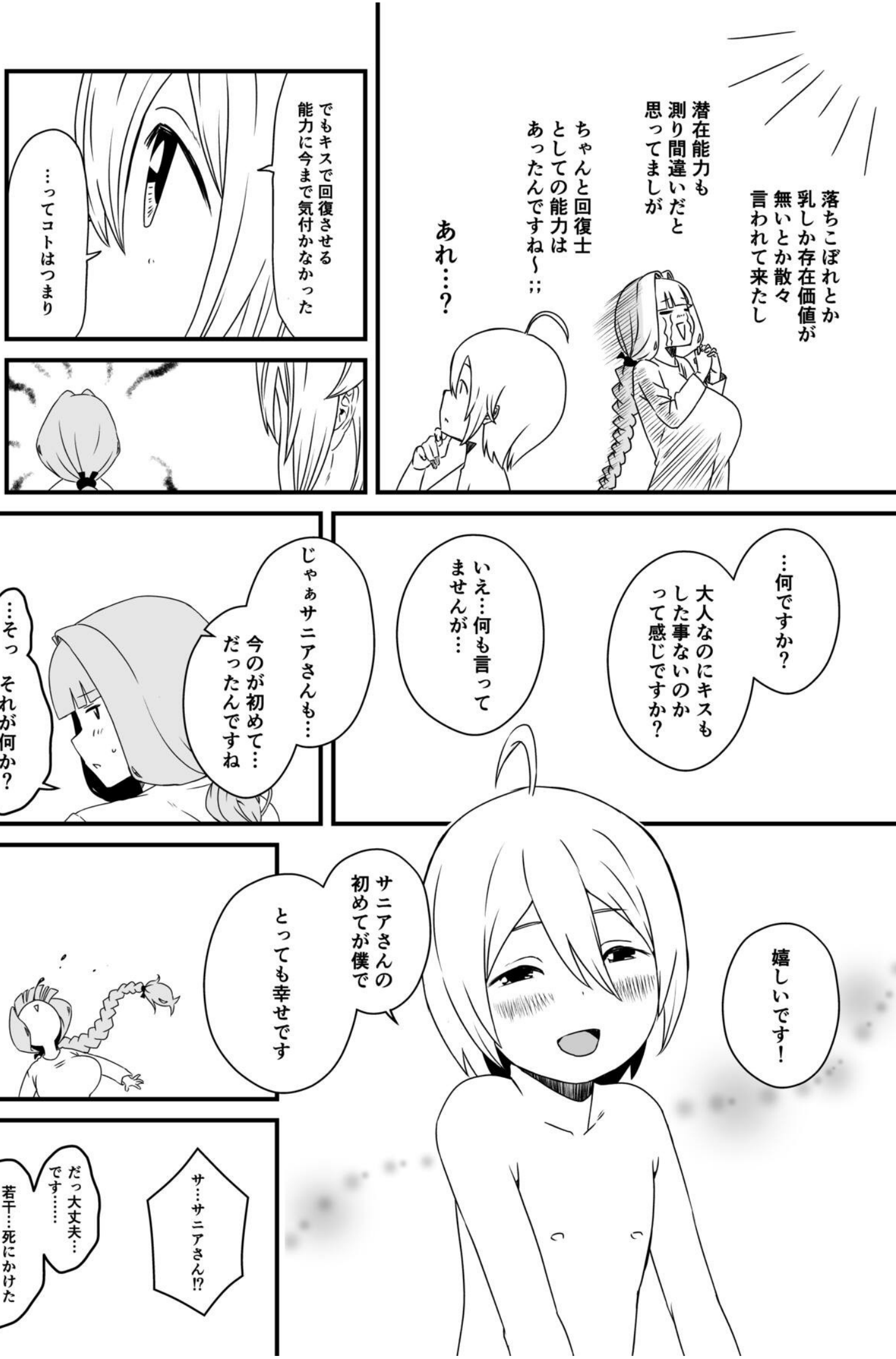
水や風や大地等
からエネルギーを
分けてもらい
それを魔術として
出力する
『外気(がいき)』タイプと

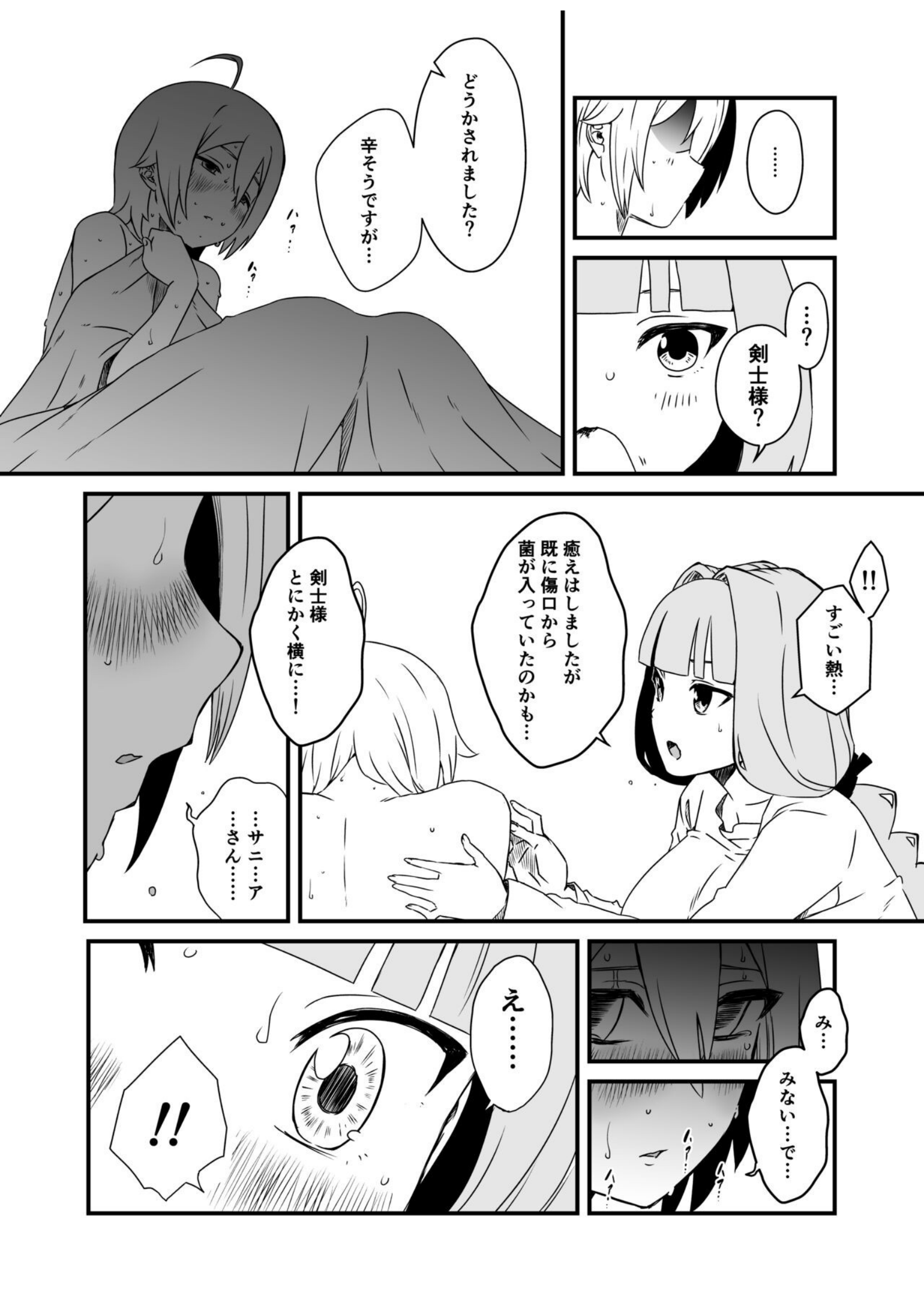
生まれながらに
エネルギーを
自身の中に内包する
『内気(ないき)』タイプ
に分かれる

なお『内気』タイプが
術をどういった形で
出力するかは
個人によって異なる



…と書いて
ありましたが


落ちこぼれとか
乳しか存在価値が
無いとか散々
言われて来たし
潜在能力も
測り間違いだと
思ってましが
ちゃんと回復士
としての能力は
あったんですね～;;
あれ…?
でもキスで回復させる
能力に今まで気付かなかった
…ってコトはつまり
…何ですか?
大人なのにキスも
した事ないのか
って感じですか?
いえ…何も言って
ませんが…
じゃぁサニアさんも…
今のが初めて…
だったんですね
…そっ それが何か?
嬉しいです!
サニアさんの
初めてが僕で
とっても幸せです
サ…サニアさん!?
だっ大丈夫…
です……
若干…死にかけた
だけなので…


どうかされました？
辛そうですが…
ハァ…
ハァ…
……
…？
剣士様？
!!
すごい熱…
癒えはしましたが
既に傷口から
菌が入っていたのかも…
剣士様
とにかく横に…！
…サニ…ア
…さん……
み…
みない…で…
ハァ…
ハァ…
え……
!!


あっ
ビクッ
ハァ…
さっき…から
カ…カラダが…
熱くて……
じわぁ…
ピクッ
燃えそう
なんです…
サニアさん…
僕…いったい


剣士様…
…失礼します
!?
サっ…
サニアさん!?
クニュ…
パサッ…
過回復…という
現象です
剣士様の体に
生命エネルギーが
過剰に送り込まれ
余分なエネルギーが
行き場を無くして
いるんです
クチュ
クチュッ
クチュッ
んあっ!
あぁっっ!
だめぇ!
いま…っ
すぐ出…
いいんですよ?
我慢しないで
出してください

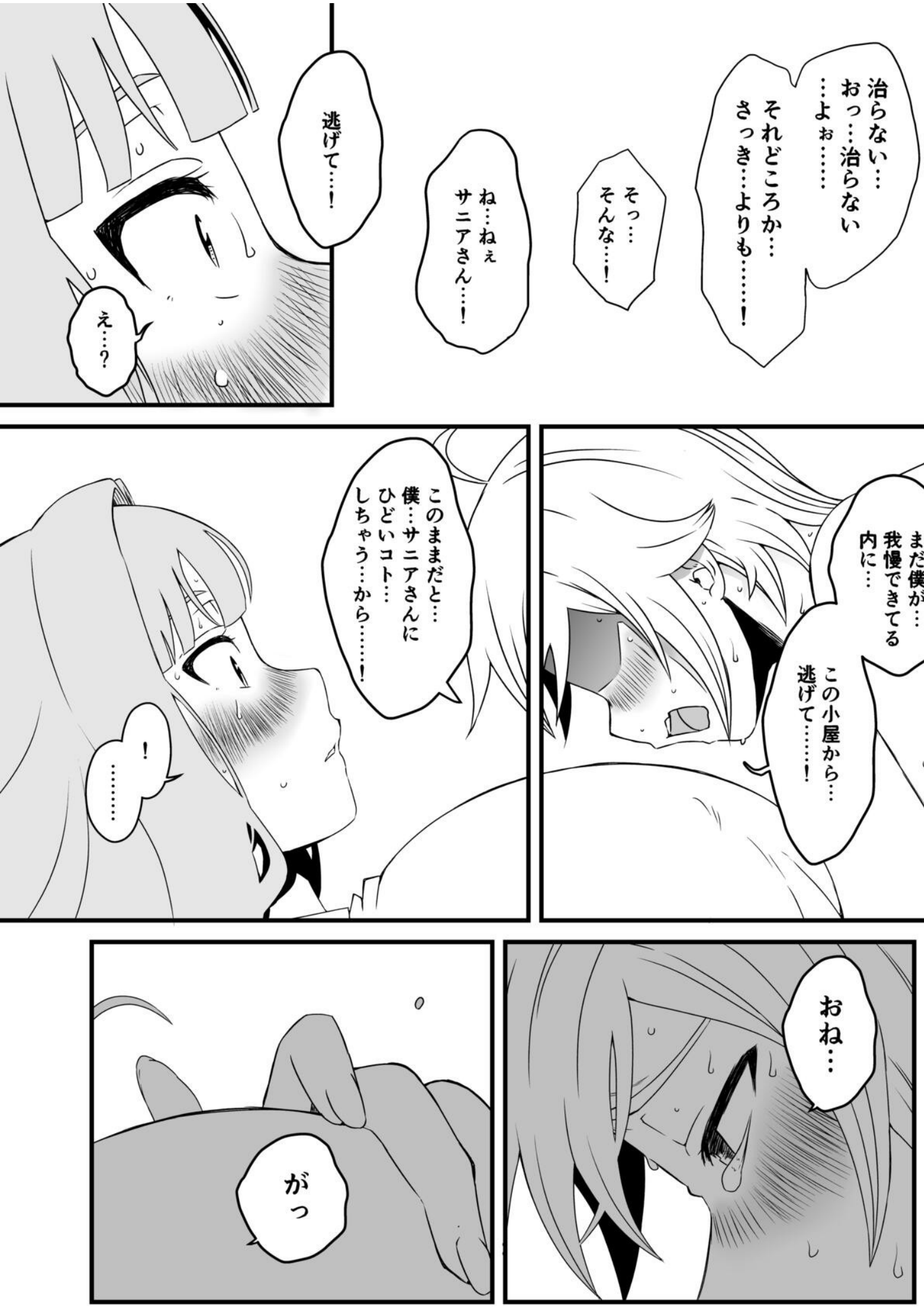

っ！
これが…
男の人の…
こんなに
デて……
平気なの…!?
それに…
凄く脈打って…
まるで心臓を
握ってるみたい…！


剣士様が…
私の手の中で…
こ…これで少しは…っ
体の熱も引くはずです
ハァ…
ハァ…
ビクンッ…
ビクンッ…


あ…
ヒュー…
ひ…っ…
ヒュー…
…初めて見る…剣士様の表情(かお)……
キモチ…いいのかな……
ハァ…
ハァ
普段はあんなに凛々しいのに…
こんなに…無防備な……しかも……
あぁ……
す…ご……


これ以上は…
私の理性が
どうにかなって
しまいそう…
かっ
体…
拭きますね？
っ!?
けっ…
剣士様っ…!?


あ…え…？
へ…？
ドクンッ
ドクンッ
ドクンッ
サニアさん……
ごめん…なさい…
ぼく…ヤバい
かも……！

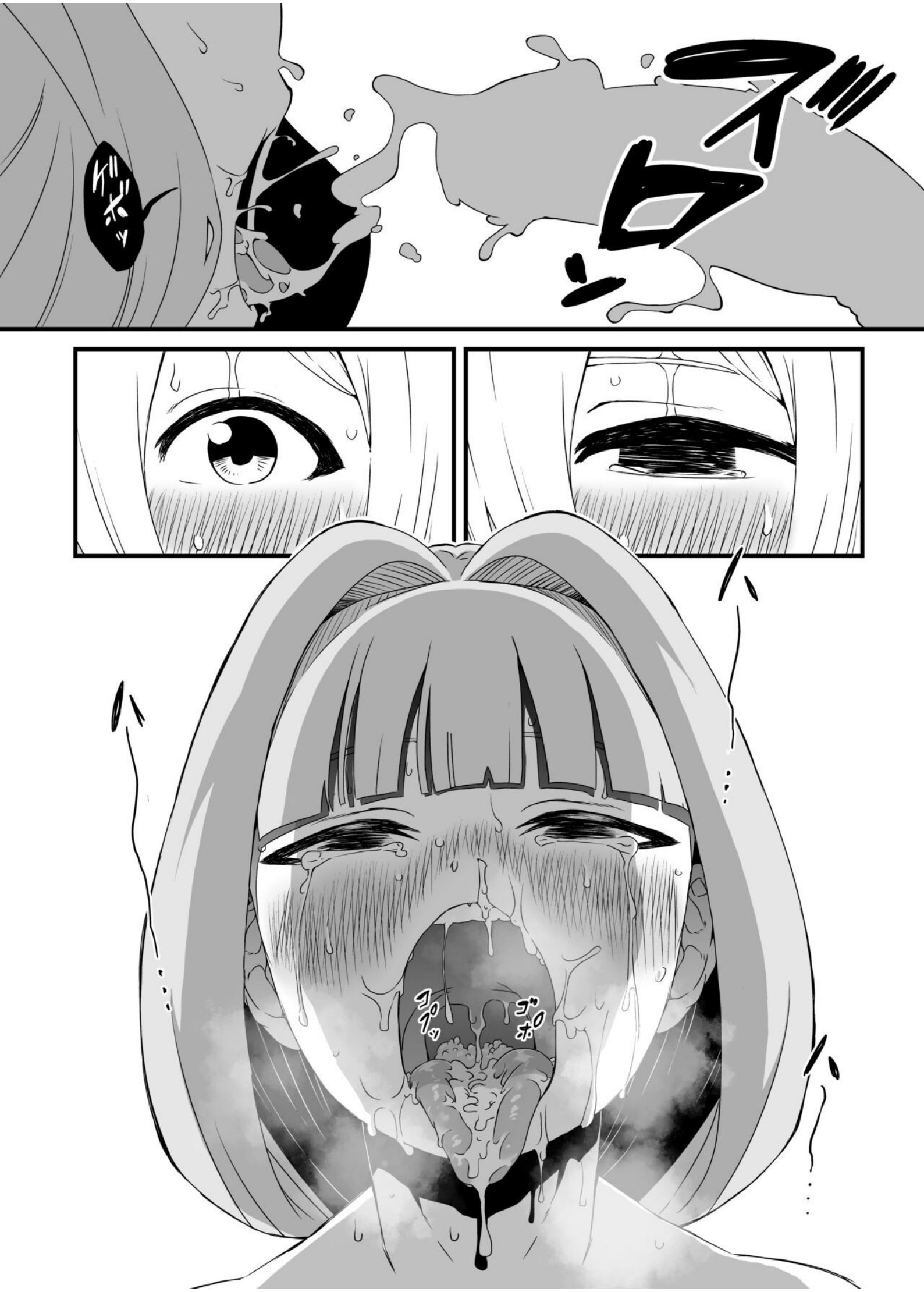

治らない…
おっ…治らない
…よぉ……
それどころか…
さっき…よりも……！
そっ…
そんな…！
ね…ねぇ
サニアさん…！
逃げて…！
え…？
まだ僕が…
我慢できてる
内に…
この小屋から…
逃げて……！
このままだと…
僕…サニアさんに
ひどいコト…
しちゃう…から……！
！
……
おね…
がっ


いいんです…
私のせい…ですから…
……それに
私……剣士様になら…
ギシ…
グイッ…
あっ…
……

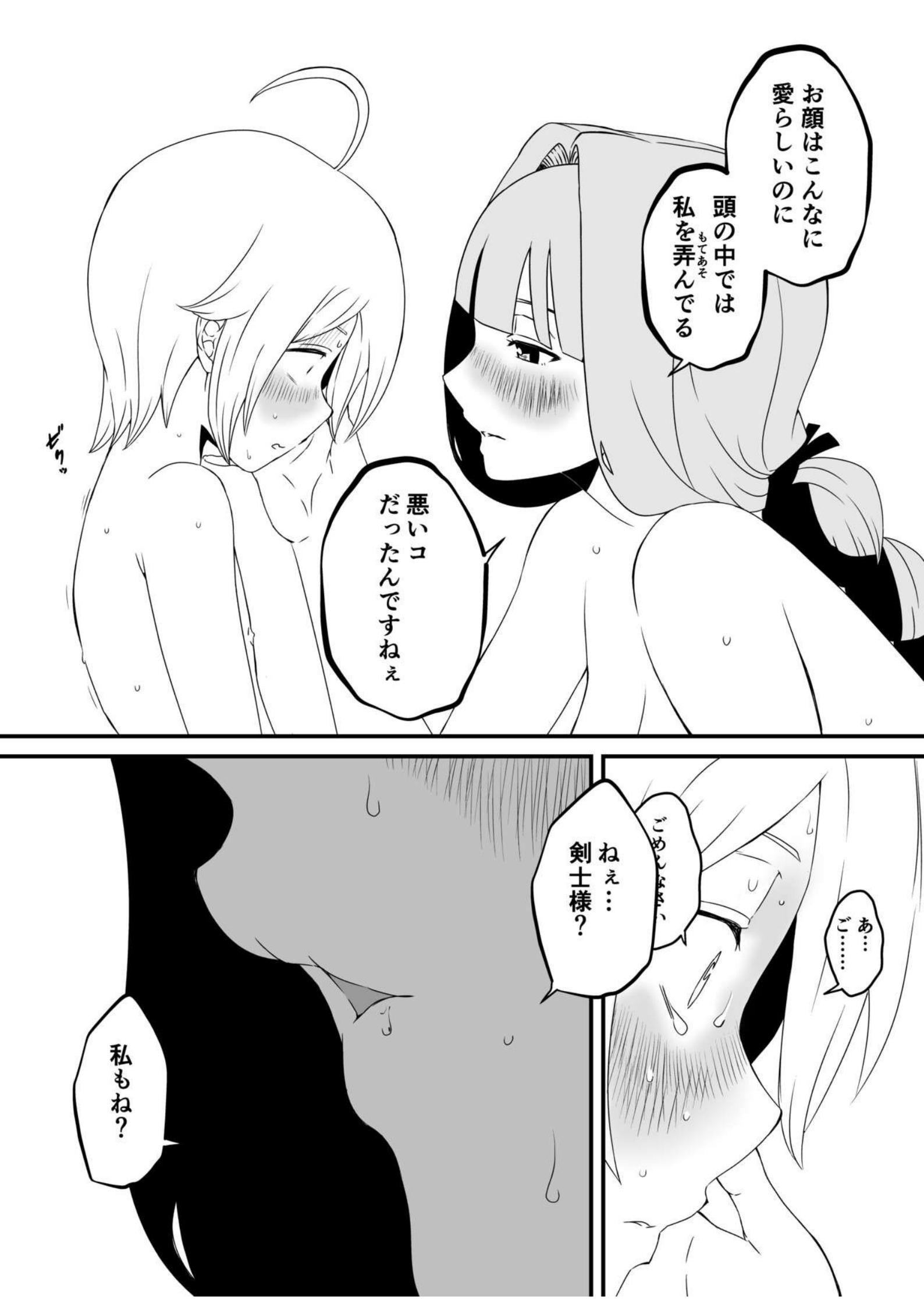

むしろ……
私で…良ければ
……その…
し…して欲しい…
……です…
ひ……
『ひどいコト』……
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ


あぶぶっ!!
ブッ
ズッ
ズッ
ブッ
ズッ
ブッ
ブッ
ブッ
ぶっ…
ブッ
ブッ
ふあぁ
あっ
あ…
すごい…!
ずっとコレ
したかったの…!
ちんちん
溶けるぅ!
サニアさんの
口にせーし射精して…
そしたらね…
ぜんぶ飲んで
くれるの!
射精るよ…?
このまま射精すからね!?
サニアさん!
サニアさぁん!!
ブッ
ブッ


ゴボボボ
グボッ…
ビュルルル
あっ
あっ…
ごめんなさい
……っ
ごめんね…
ビュッビュッ…
あぅ…
ブピッ
ブッ
ピュッ


ケホッ
ゴポ
コプッ

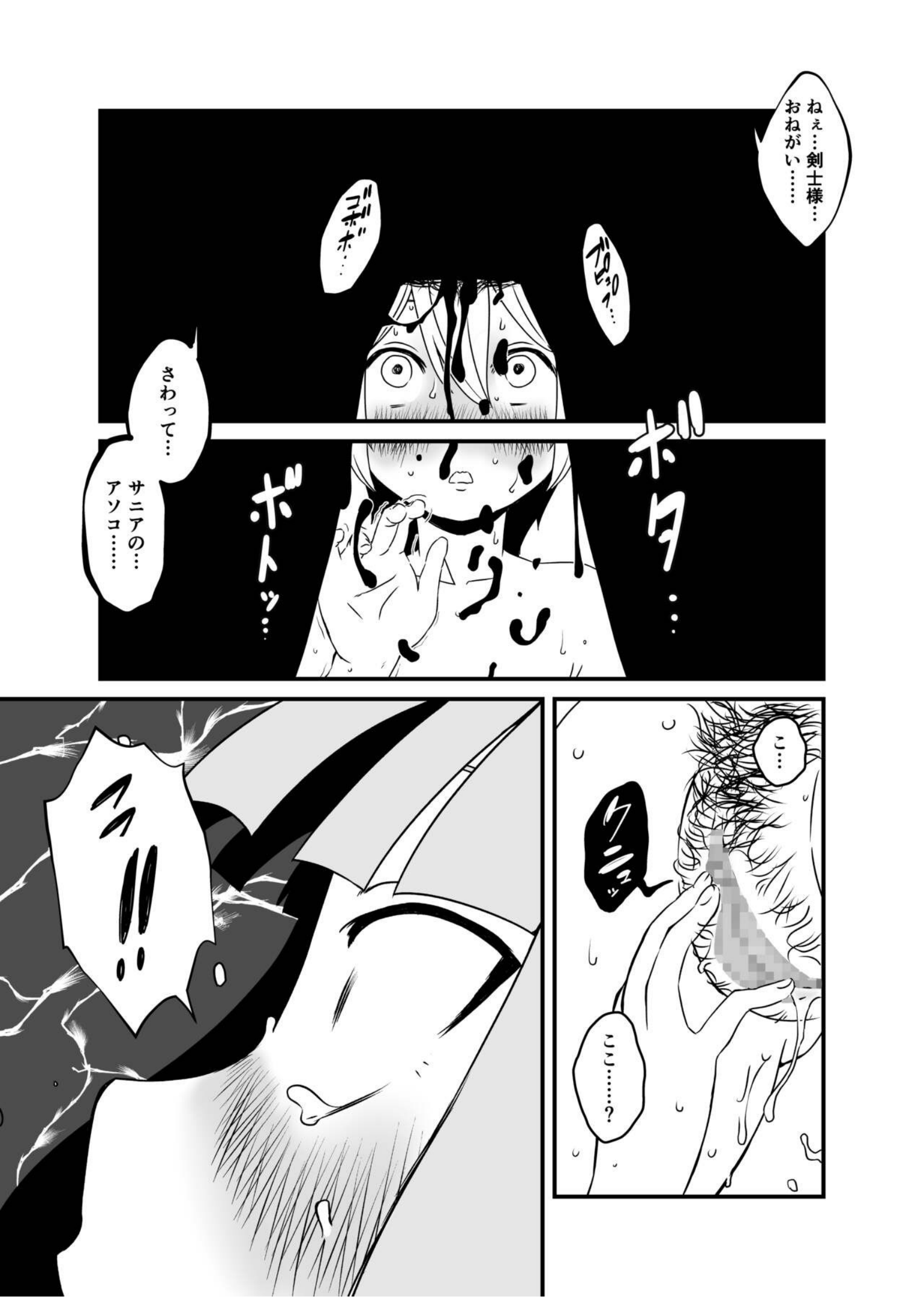

あ…
サニア…さん……っ
ぼく…何てことを…
ゴキューッ
はぁ……
ドクーンッ…
ふふ……
よくわかりました
剣士様が私をどう見ているか…
ビクッ
っっ
ドクンッ…


お顔はこんなに愛らしいのに
頭の中では私を弄(もてあそ)んでる
ぜりっ
悪いコだったんですねぇ
あ…ご……
ごめんなさい
ねぇ…剣士様？
私もね？


剣士様が寝てる私の
服を剥ぎ取って
力任せに
胸を揉んで
口に捩じ込んで
ノドの奥で
出されたモノを
飲ませるんです
それでも剣士様は
治らなくて
泣いてる私のアソコに
無理矢理挿入れて
乱暴に腰を叩きつけて
何度も私の膣内で
果てて

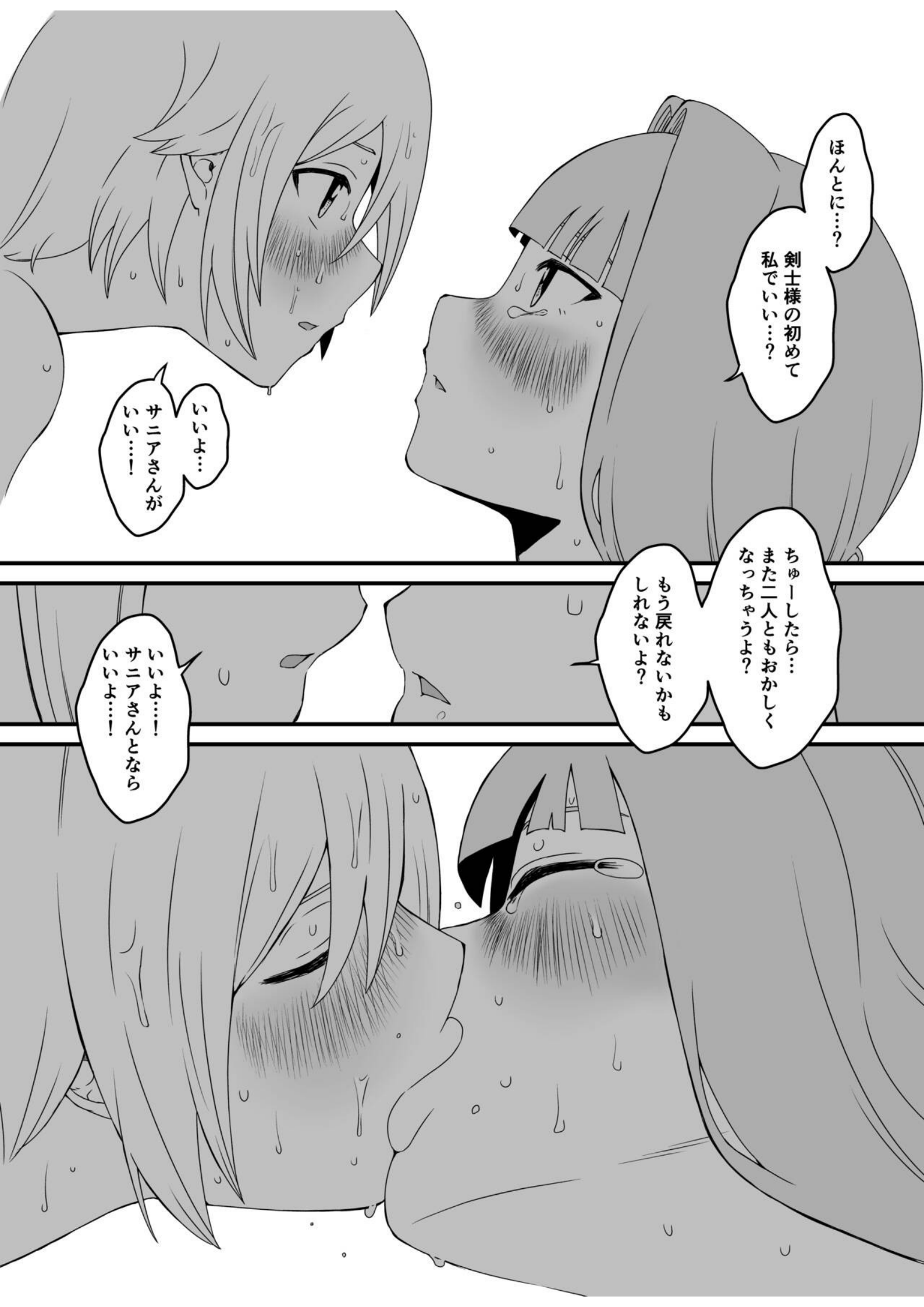

それで最後に
剣士様はグッタリした
私の髪を撫でながら…
キスして
くれるんです…
「愛してる」って
囁きながら
ズルいでしょ？
でもね？それで
私許しちゃうんです
……な
何を言ってるの…？
サニアさん…
ふふ…
そんな事を考えながら
眠る剣士様の
横でいつも自分を
慰めていたんです
!?
ガッカリしました？
ふふ…
でも剣士様も私を
妄想の中で犯して
いたんですもの
おあいこ
ですよね
ど…どうしちゃったん
ですか…
何か…いつもの
サニアさんと
違います…


…きっと私が注入した
生命エネルギーが
剣士様の体を巡って
精液を介して
私にも注入ったんだと
思います
そ…そんな事って…
キスしてないのに…
もしかしたら…
体液全てかも
しれません…
あは…まるで強い
お酒を飲んで酔った
みたいです…
フワフワして…
カラダが熱くて…
ボタッ
ボタッ
アソコから
溢れて……
ハァ…
ハァ…
ハァ…
コプッ…
ブルボッ
止まらないんです…


ねぇ…剣士様…
おねがい……
ブピッ…
ゴボボ…
さわって…
サニアの…
アソコ……
ボタ…
ボトッ…
こ…
クニュッ
ここ……？
!!


……ぅあ…っ
あっ……っ!!
はぁ…
はぁ…
はぁ…


…大丈夫？サニアさん
……戻った？
…はい……
ごめんなさい…かお……
私ので…よごしちゃった
…僕もさっき汚したし……サニアさんのだから…いい
……ねぇ剣士様……
ん？
……
……抱いてほしぃ……
です…
…ぅん
うんっ！
ぎゅっ…


ほんとに…？
剣士様の初めて私でいい…？
いいよ…サニアさんがいい…！
ちゅーしたら…また二人ともおかしくなっちゃうよ？
もう戻れないかもしれないよ？
いいよ…！サニアさんとならいいよ…！


んっ…
ふ…！
っ…
…っ
んむ…
んっ…
ぁむ
む…
はっ
はっ…
はぁ
はっ
…欲しい…！
欲しいよ…！
剣士様…！
挿入れてっ…！
ここ…
ここに
挿入るの…！
早く…
プチュッ
押し込んでぇ!!




…っ
はいっ……た…ぁ
あっ…
ガク
うそでしょ…
ガク
ガク
はぁっ
はぁっ
挿入れた
だけで……！
ガク
ビチ…
ビチュッ…
3回も…
ビクビク…


サニアさん…
だいじょうぶ…？
痛くない…？
はい…
平気です…
キモチ…いいです…！
すごく……！
剣士様は…？
ギシ…
僕も…すごく
キモチいいよ！
…破れた膜が…
一瞬で治っ…
あぁダメ…！
なにも考えられない…！
コレ…
すごすぎる…！
ギュウ
ねぇ動いて…！
剣士様のので
突いて…！
ハイ…
ハイ…
はやく…！
うん…でも
あの……
すぐ射精ちゃう
かも…
いいから！
いっぱい射精して
いいか
らぁっ!!


すごい…！
すごいよぉっ！
バチッ
バチッ
バチッ


サニアさん!?
いいからっ…!
このまま…っ!
おねがいっ!
膣内(なか)ってっ…!
でもっ
赤ちゃんっ
できちゃうよ!?
いいの…!
いいから!
このまま
射精(だ)して…!
抜いちゃやだぁ!!
でっっ…!!
あっ…!
イっ……っ


あっ…
熱…っっ！
う…！
でてっるっ…っ
あ
すごっ
あっ
いいっ！
あ
あぅっ
はぁっ
はっ
はっ
はっ
あっ
まだっ
でてるぅ！
うぁっ
イクの…
とまんな…っ
あっ
あたしも
ずっ
と…っ！
あっ
とまんな…
せぇしい
とまんないよぉ！
あっ
シャニアしゃ…


はぁっあっ
はあっ
あっ
あぁっ
はぁっ
はぁっ
あっ
でてるっ
あっ
あうう
はっあっ
あっ
ブボッ
ブボッ
ビチッ
ボタッ
けっ…
剣士様…？
そんなに出して
大丈夫
サニア…さん
一回抜くね？
えっなんっ
待って！
今抜いちゃ

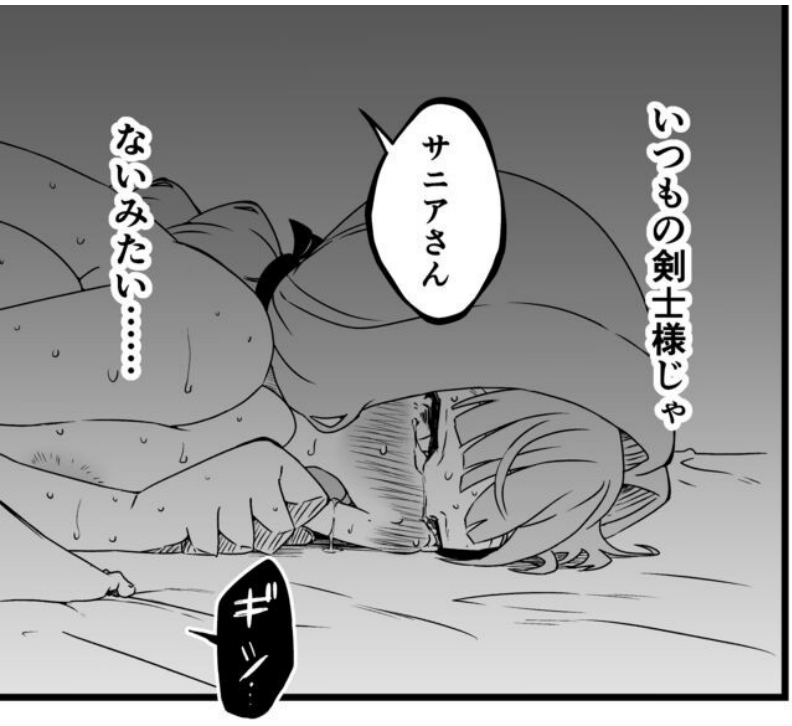

あっ
むりっ
いやぁあっ!!
みないでぇえ!!


いやぁ…
おしっこ…
とまって…
音やだぁ…
はぁっ
はぁっ
はぁっ
ビィィィ
ビッビッ
ビッ
ポッ
ごめんっ…なさい…！
はぁっ
はぁっ
嫌いに…ならない
ローッ
で？

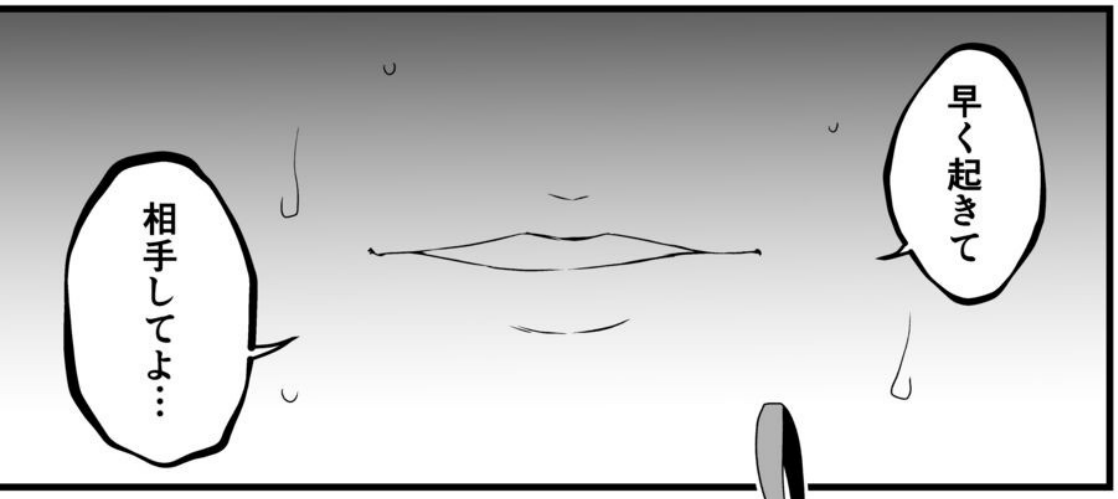

うぐっ!?
ひっ
ひっひぁっ
ぁひっ
だめっ
ひんっ
またイクっ…!
またイクぅっっ!!


あっ
イっ
イってる
イってます
イってます
あまたっ
またくるっ
あ
あ
あ
あ
あ
ふっ
ふっ
ふっ
ハーハッ
ハーハッ
パーチュ
パーハッ
いやっ
ソコいやぁ！
拡げないで！
!!


あっ
あぁっ
あっ
いやっ
むりっ
ヌリュ
ヌルッ
ギチッ
ギッグッ
…っっ
射精すよっ
パーン
パーン
パーン
パーン
パーン
イクッ!
イクぅ!!
バクッ
バクッ
バクッ…
あっ…
うあぅ
んぁぁ…
ズロ…
はっ
はっ
はあっ
ブビビッ

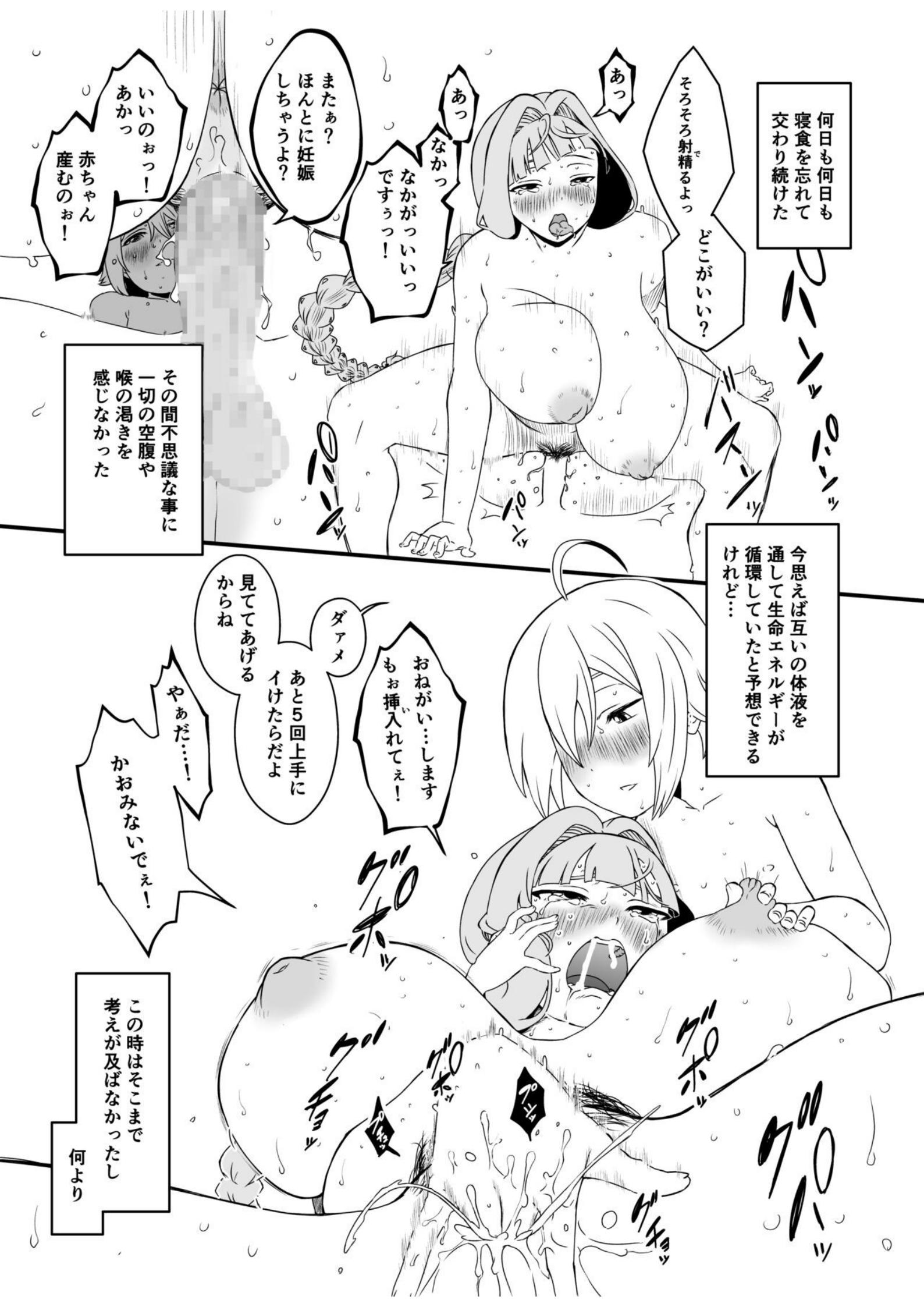

なんか…
おかしい…
いつもの剣士様じゃ
ないみたい……
サニアさん
ギッ…


もしかして
これが
剣士様の…本性…!?


早く起きて
相手してよ…


夢にまで見た
ドS剣士様……!?
まだまだ
寝れると思わないでね


次は
サニアさんに
上になって
欲しいなぁ
し…幸(しあ)ーせぇー…
は…
はひ…
わかりましたぁ…
それから私達は――

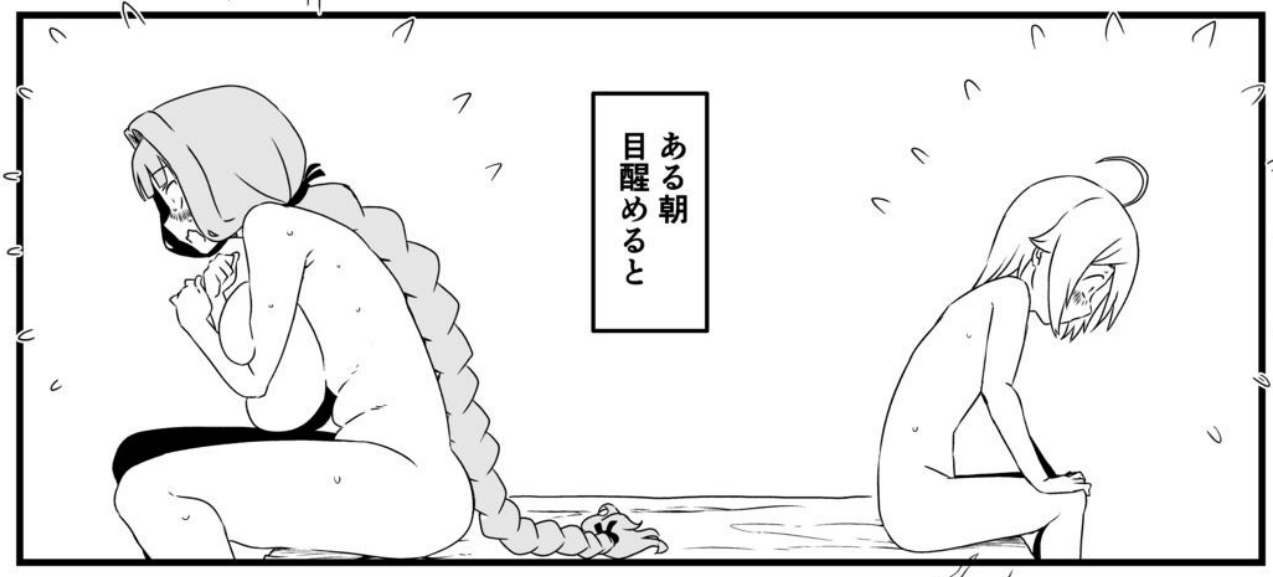

何日も何日も
寝食を忘れて
交わり続けた
あっ
そろそろ射精るよっ
どこがいい？
あっ
なかっ
なかがっいいいっ
ですぅっ！
またぁ？
ほんとに妊娠
しちゃうよ？
いいのぉっ！
あかっ
赤ちゃん
産むのぉ！
ハーンッ
パンッ
ズンッ
パンッ
今思えば互いの体液を
通して生命エネルギーが
循環していたと予想できる
けれど…
その間不思議な事に
一切の空腹や
喉の渇きを
感じなかった
おねがい…します
もぉ挿入れてぇ！
ダァメ
あと5回上手に
イけたらだよ
見ててあげる
からね
やぁだ…！
かおみないでぇ！
グボッ
グチョッ
この時はそこまで
考えが及ばなかったし
何より


唯々
お互いを求めるのに
必死で
それ以外は
どうでも良かった
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ふひっ！
らいふきぃ！
ふぁっ
すきぃ！
ふひぃ！
すき！
すふぃ！

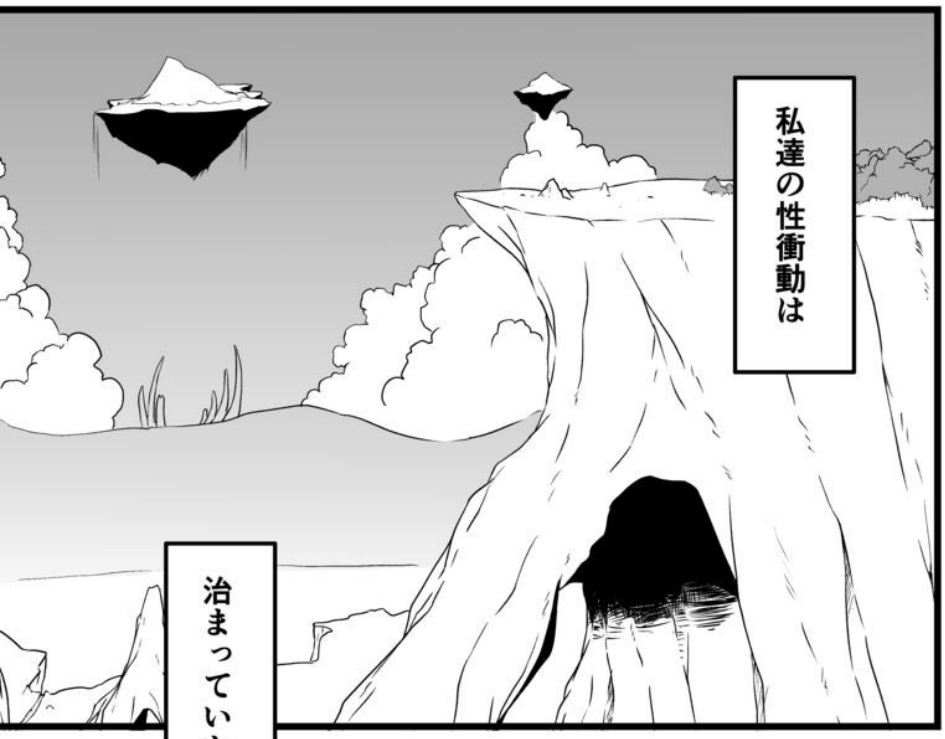

すきっ
だいすきだよっ!!
イクっ!!
いっしょにイこ!?
うんっ
わたしもっすきぃ
だいすきぃ!!
全てを投げ出し
愛する人と
重なり合う
幸福な時間だった

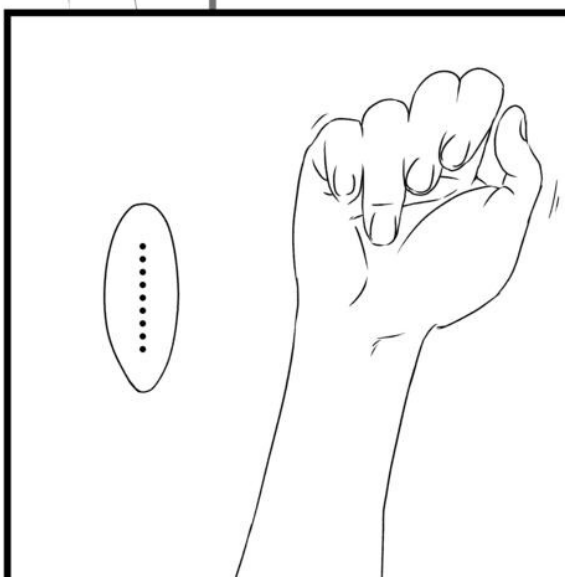

幾夜経たかは
わからないが


そして


ある朝
目醒めると


！

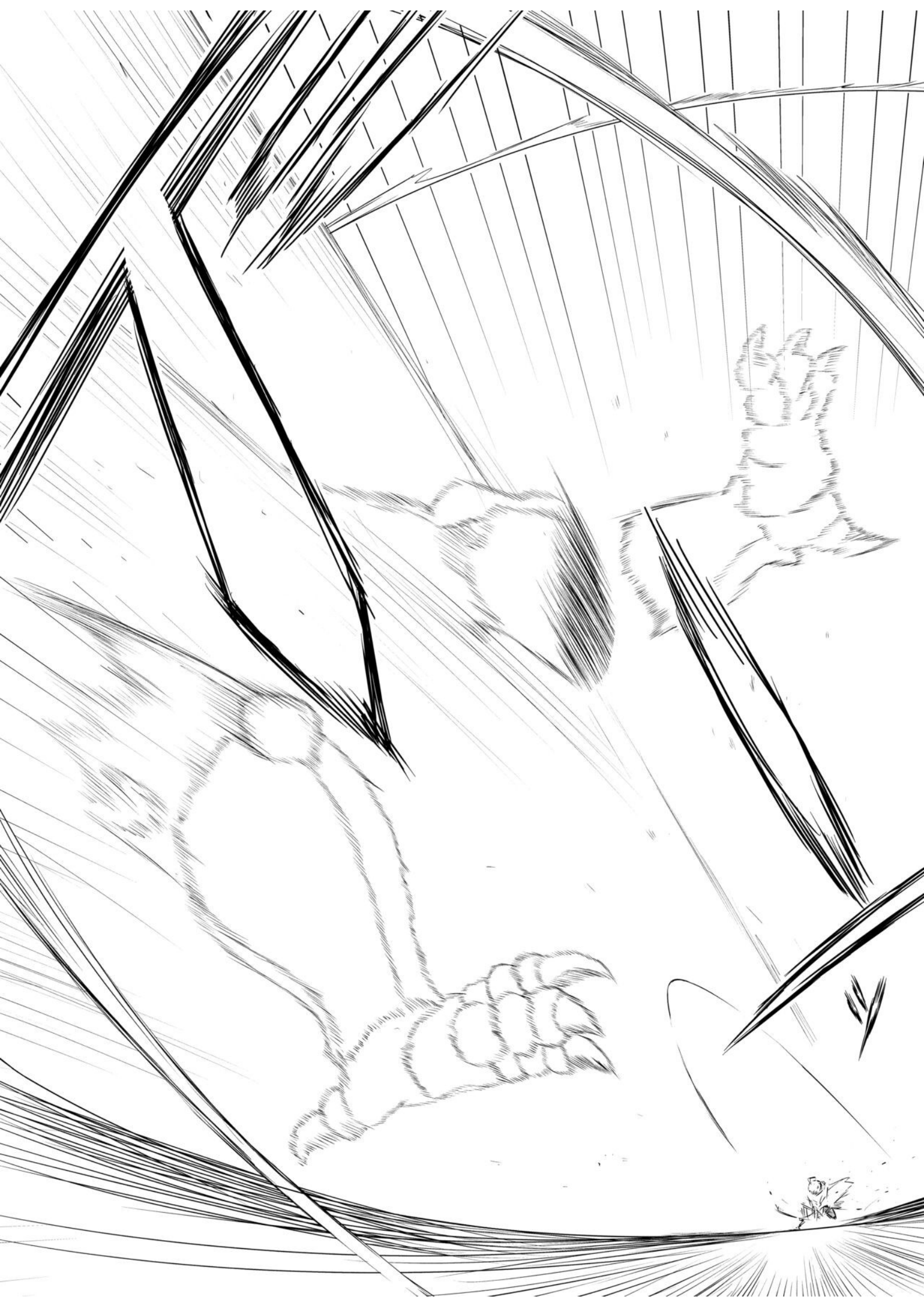

私達の性衝動は
治まっていた


……


バサッ
バシャ
バシャ
ギュ
洗濯と小屋の掃除…
一通り終わりましたね
はい
あとは布が乾き次第出発できるかと
そうです…ね…
……
あの
あ…どうぞサニアさんから…!
ごっごめんなさい…
…やっぱり私…
旅はここまでにしておいた方がいいかと……
剣士様は…
……ちょうど僕もその事を――

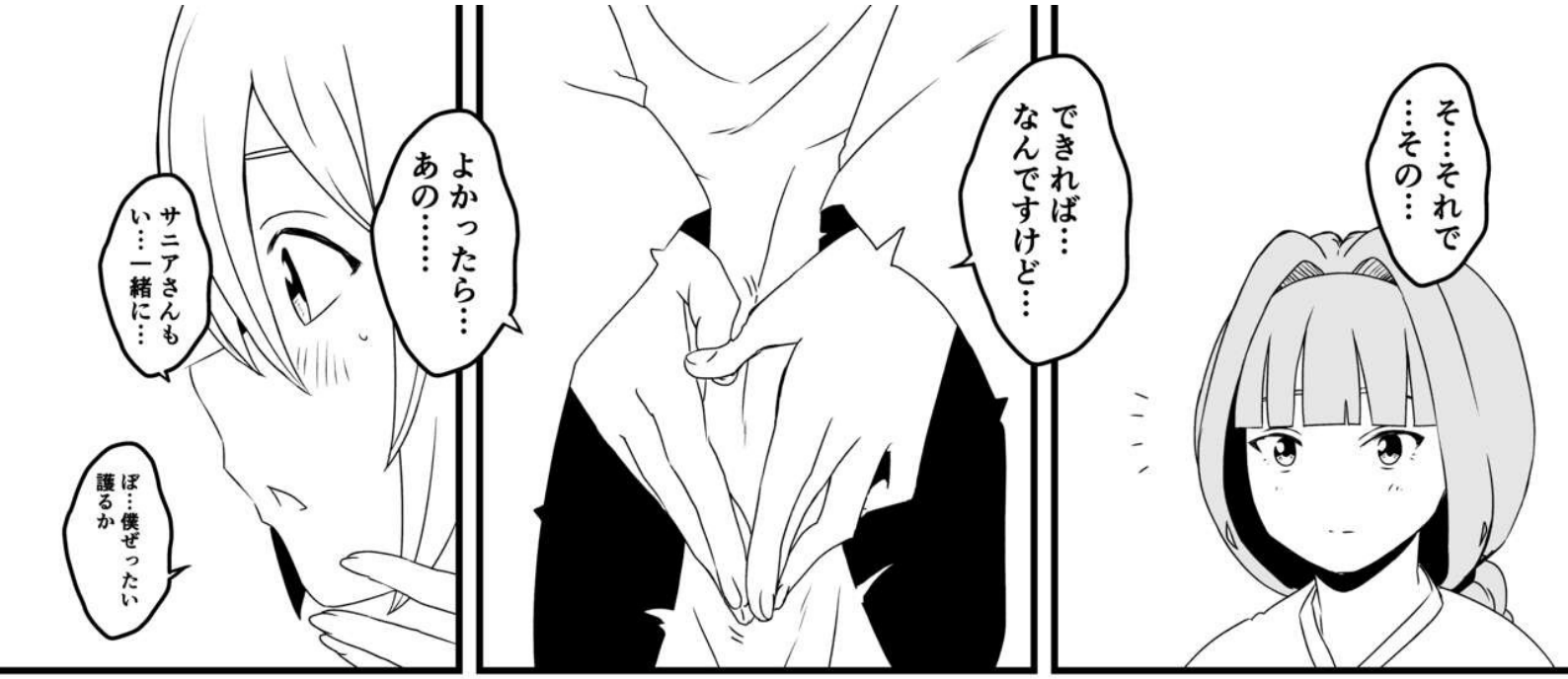

!!
ドン
ドン…
ペラ…
ペラ…
!?


ルルル




…あの時
僕が負けた
魔物ですね
後を尾けて
きたんでしょう
でも…おかげで
「確認」できました
今朝から感じてた
違和感の正体
僕は少し
強くなったみたいです
…あの魔物は…現在
発見されてる中でも
指折りの強さです…
それが
跡形も無く…！
しかも…大地と
空まで抉(えぐ)れて…
なぜ…どうやって
この短期間で
ここまでの強化を…
……


…サニアさんの
おかげだと思います
えっ？
サニアさんから
僕に注入った
生命エネルギーが
何日もかけて
僕のちからとして
定着した…
そんな感覚を
感じます
そんな事が…？
でも…確かに
それくらいしか
思い当たる事は…
…サニアさんは
僕に死んで欲しくないと
言ってくれました
でも…
今の僕なら…
以前よりも
強くなった僕なら
多少は世界の
平和に貢献できるかも
しれません
だから僕は…
旅を続けます
……
はい


そ…それで…その…
できれば…なんですけど…
よかったら…あの……
サニアさんもい…一緒に…
ぼ…僕ぜったい護るか

ら



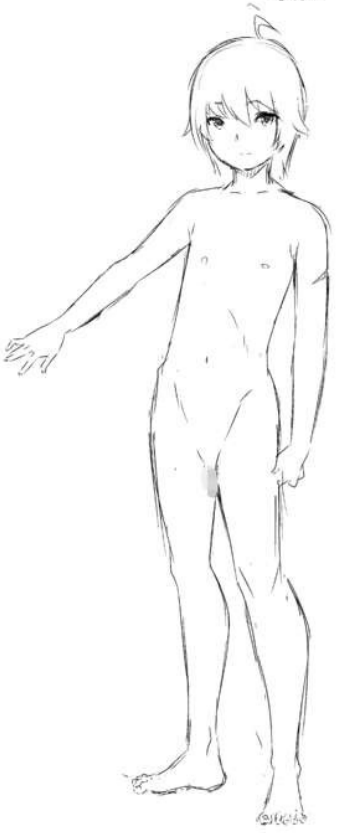

やれやれ仕方ないですねぇ～
ザッ
剣士様私が居ないとまた無茶しちゃいそうですし
ザッ

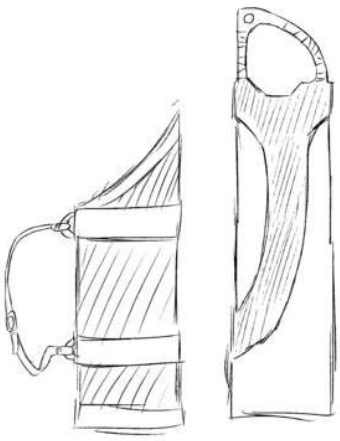

さぁ
行きましょう
剣士様
！
はっ
はい…！
終

カイ（剣士）









サニア（僧侶）

